



TOKYO BAY AREA Towards 2040
11 Colors ; 未来創造域のデザイン

「東京ベイエリアビジョン」(仮称)の検討に係る官民連携チームの提案

Oct. 2019

東京ベイエリアは、都心に隣接するという大きなアドバンテージを持ちながらも、長期に渡り未利用地を広く抱えてきた。そこには、小さな町割りの地区から埋め立てにより形成される大街区まで、性格を異にするエリアが存在する。

「東京ベイエリアビジョン」(仮称)の検討に係る提案を行うため、昨年10月に設置された官民連携チームは、「魅力あるまちづくり」、「活力と躍動感のあるまち」、「最先端技術のまち」の3つのワーキンググループ(以下「WG」という。)で、自由な発想のもと議論を重ねてきた。昨年12月には、提案に向けたコンセプトや基本的な考え方について各WGからの報告内容をまとめ、第1回の提案を行った。その後、東京の価値と魅力を高め、世界から人と投資を呼び込む方策等について各WGで議論を進め具体化した内容を、今年3月に第2回の意見として提案を行っている。

このたび、これまでの検討を踏まえ、2040年代を見据えたベイエリアが目指すべき3つの姿を示すとともに、官民連携チームの11の提案を、庁内検討委員会への最終提案として行うものである。

本提案が、東京の成長を創り出す場所として大きな可能性を秘めたベイエリアの明るい未来を示し、今後のあり方を検討するきっかけとなれば幸いである。

官民連携チーム コーディネーター 村木 美貴

目次

第1章

I. ベイエリアの目指す姿	1
II. 現状と課題	3
III. 官民連携チームの11の提案	9
1 東京臨海リング ; 内海を中心としたまちをつくる	9
2 自由、気ままなパブリックスペース ; 道路、公園、水面などを使い方から変えていく	11
3 シャトルフェリー、ロープウェイ ; 様々なモビリティで移動を楽に、そして楽しくする	13
4 MICE、IR、トランジットツーリズム ; 世界へ向けて「ここにしかない」バイエリアツーリズムを展開する	15
5 制約からの解放 ; ヒトが時間や空間などの制約を受けない日常環境を生み出す	17
6 レガシー×ウェルネス ; 東京2020大会レガシーからウェルネスのまちを創成する	19
7 水・空気・土の浄化 ; 地球環境再生のシンボル、実践拠点となる	21
8 ゼロ・エミッション・アイランド ; 災害時にも自立できるエコスフィアをかたちづくる	23
9 家事・介護ロボット ; 超高齢社会の課題を最先端技術で解決する	25
10 先端イノベーション、実験フィールド ; 「バイエリア発！世界初！」を生み出し続ける	27
11 官民連携LLP、ワンストップサービス ; 民間と行政が一体となって人材と投資を呼び込む	29
IV. 11の提案から、未来創造域をつくる	31

第2章

各WGの提案の詳細（第1回、第2回提案）	33
----------------------	----

< 参考 >

「東京バイエリアビジョン」（仮称）の検討に係る官民連携チーム設置要綱	66
------------------------------------	----

自由、気ままなパブリックスペース

シャトルフェリー、ロープウェイ

MICE、IR、トランジットツーリズム

制約からの解放

レガシー×ウェルネス

東京臨海リング

水・空気・土の浄化

ゼロ・エミッション・アイランド 家事・介護ロボット

先端イノベーション、実験フィールド

官民連携 LLP、ワンストップサービス